

読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

津山市立広野小の児童に長年親しまれながら、詳細が分からなかった「広野民謡」の作曲家が判明しました。記事を読み、質問に答えましょう。

広野民謡

広野小（津山市田熊）の運動会で踊りの曲として長年児童に親しまれながら、詳細が分からなかった「広野民謡」について、同小教諭らが作曲家として地元で活躍した故安藤貞也さん（1905

～81年）の作品であることを突き止めた。新型コロナウイルスの影響でここ2年、児童が曲に触れる機会がなかったことから伝承に向けルーツに迫った。（有国由花）

作曲は故安藤貞也さん

（28）が昨秋に乗り出した。地元で詳しい同小地域学校協働推進員下山哲

のよう振り付けで披露していたが、同小には曲の録音テープが伝わるだけで作詞や作曲家を知る関係者はいなかった。調査は新型コロナウイルスのため踊れず、民謡を知る児童が少なくなってしまう状況を危ぶんだ野亀貴義教頭（50）と柴田龍馬教諭



故安藤貞也さん

宮のお山」「紙で名高い広野村」など地域の名所や遺構、歴史が盛り込まれている。2000年ごろには運動会で全校児童が盆踊り



広野小教諭ら 手書き楽譜など発見

広野民謡は4分の2拍子で、独特な節回しが郷愁を誘う3分33秒。歌詞は4番まであり「花が散る散る加茂川ライン」牛掛け同小の校歌も作曲したの子いせき（井堰）「真安藤さんにたどり着いた。歌詞の計4点を発見。手書

東京音楽学校（現・東京芸術大）選科修了後、東京でバイオリン奏者として活動した安藤さんの経歴も判明。津山に戻ってからは作陽音楽大などで教えながら、地元の校歌や民謡、小唄など40曲以上を作った。同小は今年から踊りとともに広野民謡にまつわる歴史を学ぶ授業に取り組んでおり、野亀教頭らは「地元の歴史に光が当てられた。地域で活躍した作曲家と合わせて児童にしっかり継承したい」と話している。

広野民謡の作曲者を安藤貞也さんと突き止め、手書き楽譜を発見した広野小の（右から）野亀教頭、柴田教諭、下山さん

17日付山陽新聞、作州ワイド版

Q1 「広野民謡」は津山市立広野小の運動会で踊りの曲として親しまれています。広野小の教頭らはなぜ広野民謡のルーツに迫ろうと考えたのでしょうか。第4段落を読み、答えましょう。

Q3 広野小の教頭らは、故安藤貞也さんが広野民謡の作曲家であることを示す証拠として、何を発見したでしょうか。見出しの言葉で答えましょう。第5段落も参考になります。

Q2 広野民謡に出てくる「花が散る散る加茂川ライン」などの歌詞は、地域の何を歌っているのでしょうか。

過去の問題は
こちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。